

アナログプレイヤーの比較試聴(16)

—モーツアルトを聴く(16)—

1. 始めに

前報(15)に引き続き、アナログプレイヤー3機種の比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はアンサンブルの曲です。

ドイツグラモフォン MG2248

モーツアルト セレナーデ第9番<ポストホルン>

セレナーデ第6番<ノットルナ>

カール・ベーム指揮ベルリンフィル

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorensTD124 の再生では、セレナーデとは言いながらベームの指揮でかっちりとした構成のオーケストラ曲となっており、艶のある力強い演奏です。<ポストホルン>の命名が付けられたポストホルンのソロも力強く鳴り響きます。

LINN LP-12 の再生では、ディテールの再現により構成のととのったオーケストレーションが再現されています。ポストホルンのソロの箇所など、定位も確かでホルンの質感も優雅です。

Grrad401 の再生では、中庸で力強く構成のがっちりした演奏で、ポストホルンのソロも朗々と聴かせます。

4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、かっちりとした構成のオーケストラですが、ディテールの再現や力感や艶の出方など、それぞれの魅力があります。

以上